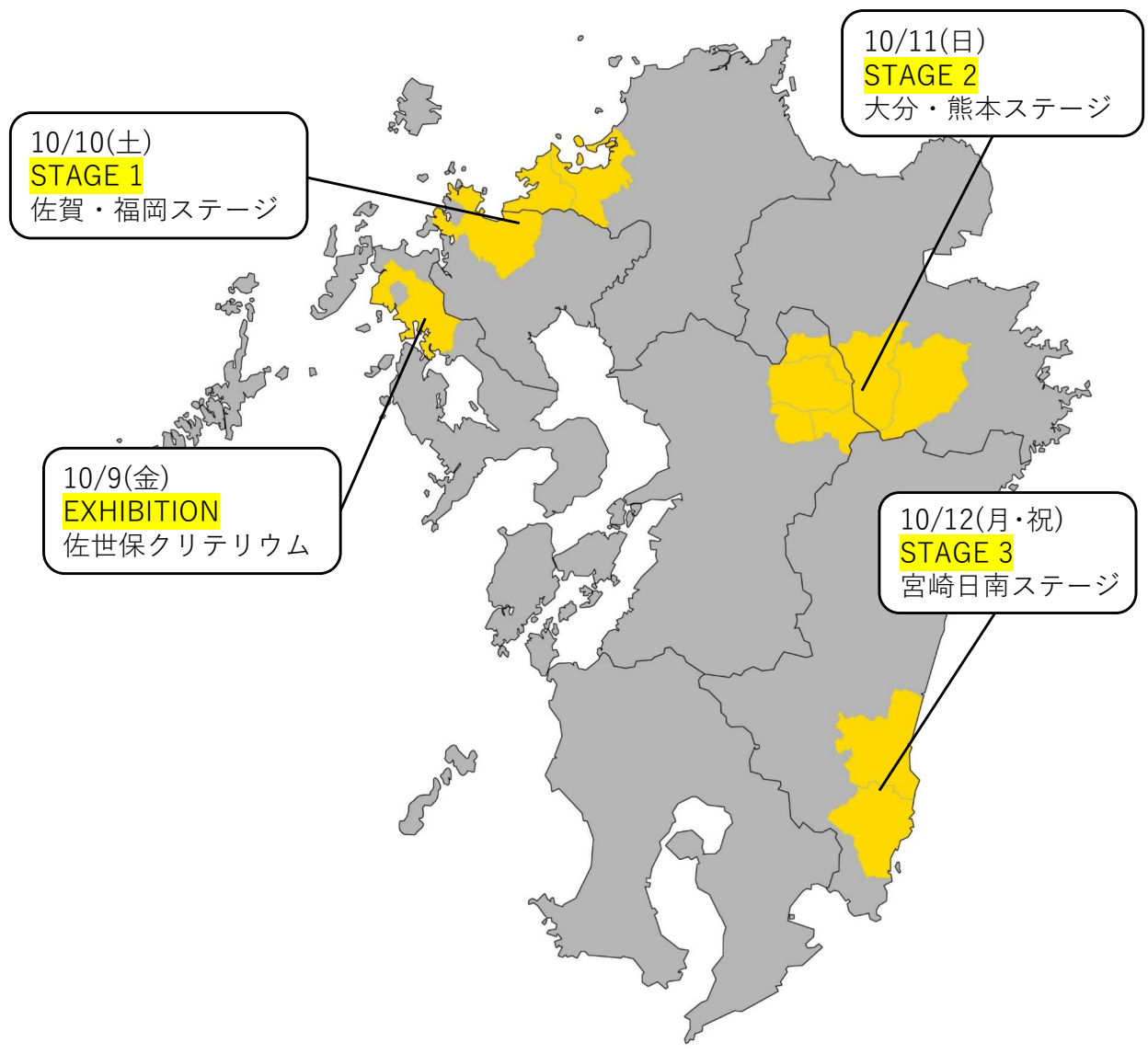


2026年6月10日

報道各位

マイナビ ツール・ド・九州2026記者説明会

国際自転車競技連合(UCI)認定のサイクルロードレース「マイナビ ツール・ド・九州2026」を10月9日(金)から12日(月・祝)まで、国内外から有力選手108名(予定)を招聘し、長崎県、佐賀県、福岡県、大分県、熊本県、宮崎県で開催します。  
既に発表済みのスタート、フィニッシュなどコースの詳細や第1弾出場チーム、リーダージャージのデザイン、大会アンバサダーなどについてご説明いたします。



【本件に関する問い合わせ先】  
一般社団法人ツール・ド・九州 中川・小山  
電話 092-981-3020  
koyama@tourdekyushu.asia

## 【マイナビ ツール・ド・九州2026 開催概要】

<u>主 催</u>	ツール・ド・九州2026実行委員会、(一社)ツール・ド・九州	
<u>競技主管</u>	(公財)日本自転車競技連盟	
<u>協 力</u>	佐世保市、唐津市、糸島市、福岡市、豊後大野市、竹田市、南小国町、産山村、阿蘇市、高森町、南阿蘇村、宮崎市、日南市	
<u>日 程</u>	2026年10月9日(金)～12日(月・祝)	
<u>開 催 県</u>	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県	
<u>レース形式</u>	転戦型ステージレース、クリテリウム	
<u>カ テ ゴ リ</u>	UCIアジアツアー2.1(ステージレース クラス1)	
<u>参 加 者</u>	国内外18チーム108名(予定)	
<u>協 賛</u>	ダイヤモンドパートナー	(株)マイナビ
	プラチナパートナー	鹿島建設(株)
	ゴールドパートナー	(株)ブリヂストン、サントリーフーズ(株)、(株)NIPPO、福岡トランス(株)、九州電力(株)
	シルバーパートナー	スタンダード・アンド・アドバンスド・コンサルティング(株)、(株)アイティフォー、全日本空輸(株)、日本航空(株)、(株)NTTドコモ、ソフトバンク(株)、(株)Cygames
	ブロンズパートナー	西日本鉄道(株)、九州旅客鉄道(株)、NTT西日本(株)、(株)肥後銀行、(株)三菱UFJフィナンシャルグループ、旭化成(株)、(株)JTБ、(株)チャリロト
	アパレルパートナー	(株)ユニクロ
	コンサルティングパートナー	九州日仏学館、K-robot(株)T&Y MATSUMOTO Corp.、(株)日本政策投資銀行
	アイアンパートナー	東京海上日動火災保険(株)、(株)麻生、(株)ひよ子、(株)クラフティア、(株)ふくおかフィナンシャルグループ、第一生命保険(株)、(株)西日本シティ銀行、(株)ゼンリン、西部ガスホールディングス(株)、TOTO(株)、三菱商事(株)、野村證券(株)、(株)オージーケーカブト、西日本旅客鉄道(株)、立命館アジア太平洋大学、(株)大分銀行、(株)プロパティマネジメント研究所、(株)佐賀新聞社、(株)ミゾタ
	サポーター	三井不動産(株)、(株)NTNセールスジャパン、石井食品(株)、昭和自動車(株)、(株)戸上電機製作所、トヨタ自動車九州(株)、(株)SYSKEN(株)、テノ、ホールディングス、(株)福山コンサルタント、福岡地所(株)、金剛(株)、(株)パールイズミ、(株)北九州銀行 社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院、(株)オートポリス、(株)ふくや、宮崎トヨタ自動車(株)、出光興産(株)九州支店、(株)電通九州、(株)山口油屋福太郎

## 1. コース

10月9日(金)の佐世保クリテリウムを皮切りに、10日(土)の佐賀・福岡ステージは、唐津市の波戸岬から福岡市の天神へ、11日(日)の大分・熊本ステージは豊後大野市役所から南阿蘇村役場へ、12日(月・祝)の宮崎日南ステージはひなた宮崎県総合運動公園をスタートして日南市を回り宮崎県庁へ向かう、4日間で計400km以上を走るコースとなります。

各コースの見どころやレース展開を左右する、スタート/フィニッシュ地点や、スプリント/山岳ポイント地点を決定しました。詳細は大会公式HPの「ステージ紹介」ページにてご確認ください。

●総合時間賞:ステージ初日からの累積タイムが最も少ない選手が表彰される。全3ステージを通して最少タイムの選手が総合優勝に輝く。

●ポイント賞:コース途中の平坦な直線に設定する中間ゴールとフィニッシュラインの着順でポイントが与えられる。ステージレースの合計得点を競う。

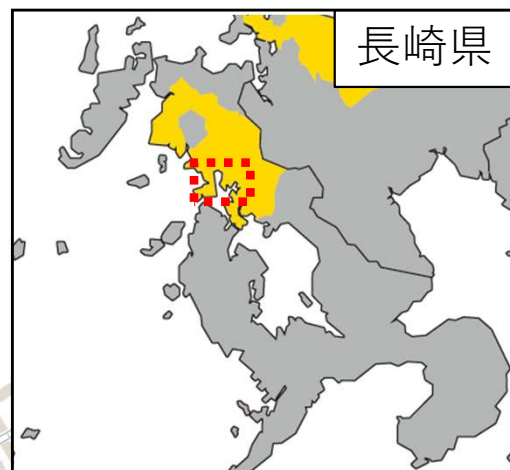
●山岳賞(KOM:King of the Mountains):峠の頂点など、坂を上り切った地点の着順でポイントが与えられる。ステージレースの合計得点を競う。

### Exhibition

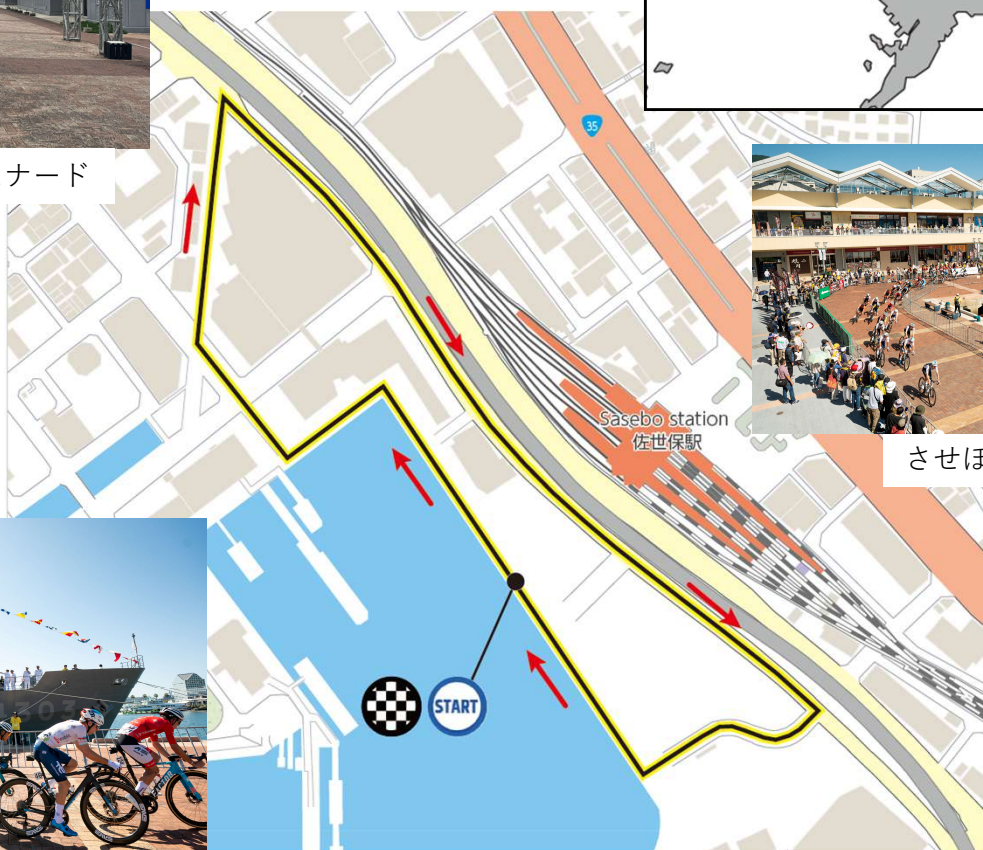
佐世保クリテリウム  
佐世保駅や商業施設「させぼ五番街」周辺を周回するコース。  
1周約1.5kmのコースを30周して順位を競う。



させぼ五番街プロムナード



長崎県



させぼ五番街



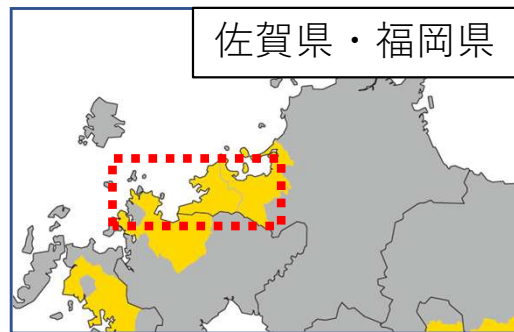
佐世保港に係留する多用途支援艦あまくさ

Stage 1

佐賀・福岡ステージ

唐津市→糸島市→福岡市

唐津市の波戸岬をスタートしてルート・グランブルーを走り、玄界灘の海岸線を望みながら糸島市を経て、福岡市の中心部・天神でフィニッシュするラインレース。



世界海洋プラスチックプランニングセンター (波戸岬)



二見ヶ浦



パラセーリング (唐津市)



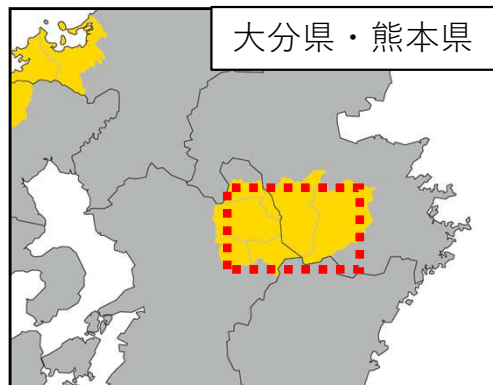
福岡市

Stage 2

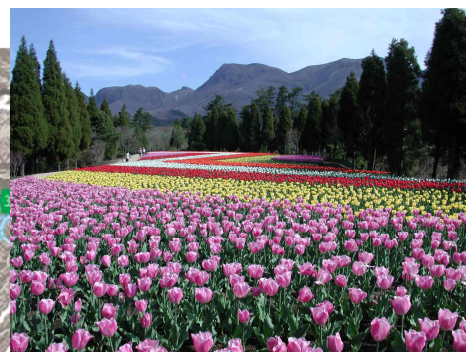
大分・熊本ステージ

豊後大野市→竹田市→南小国町→産山村→阿蘇市→高森町→南阿蘇村

豊後大野市役所前をスタートし、原尻の滝や久住高原などの観光名所を通過。その後、やまなみハイウェイを南下し、阿蘇外輪山の稜線や草原が織りなす壮大な景観の中を走り抜け、南阿蘇村役場でフィニッシュするラインレース。



北外輪山に広がる草原



久住高原

Ichinomiya 一の宮

Hakoishi Pass 箱石峠

Kimure Castle Ruins 騎牟礼城址

Shikimi 色見

Bungo-Ono (Bungo-Ono City Hall) 豊後大野(豊後大野市役所)

Minamiaso (Minamiaso Village Office) 南阿蘇(南阿蘇村役場)



復旧した阿蘇神社



原尻の滝

Stage 3

宮崎日南ステージ

宮崎市→日南市→宮崎市

ひなた宮崎県総合運動公園から日南海岸を南下。日南市内の飫肥を周回した後、宮崎県庁前でフィニッシュする南国宮崎を象徴する魅力溢れるラインレース。

**宮崎県庁**

**Miyazaki (Miyazaki Prefectural Government Office) 宮崎 (宮崎県庁)**

**Miyazaki (Hinata Miyazaki Prefectural Comprehensive Sports Park) 宮崎 (ひなた宮崎県総合運動公園)**

**START**

**Uchiumi 内海**

**Hoshikura 星倉**

**Obl Castle Town 飫肥城下町**

**NICHINAN 日南市**

**Otono Pass 大戸野越**

**Kuroshio Road 黒潮ロード**

**Kusubaru 楠原**

**MINAMATA 三股町**

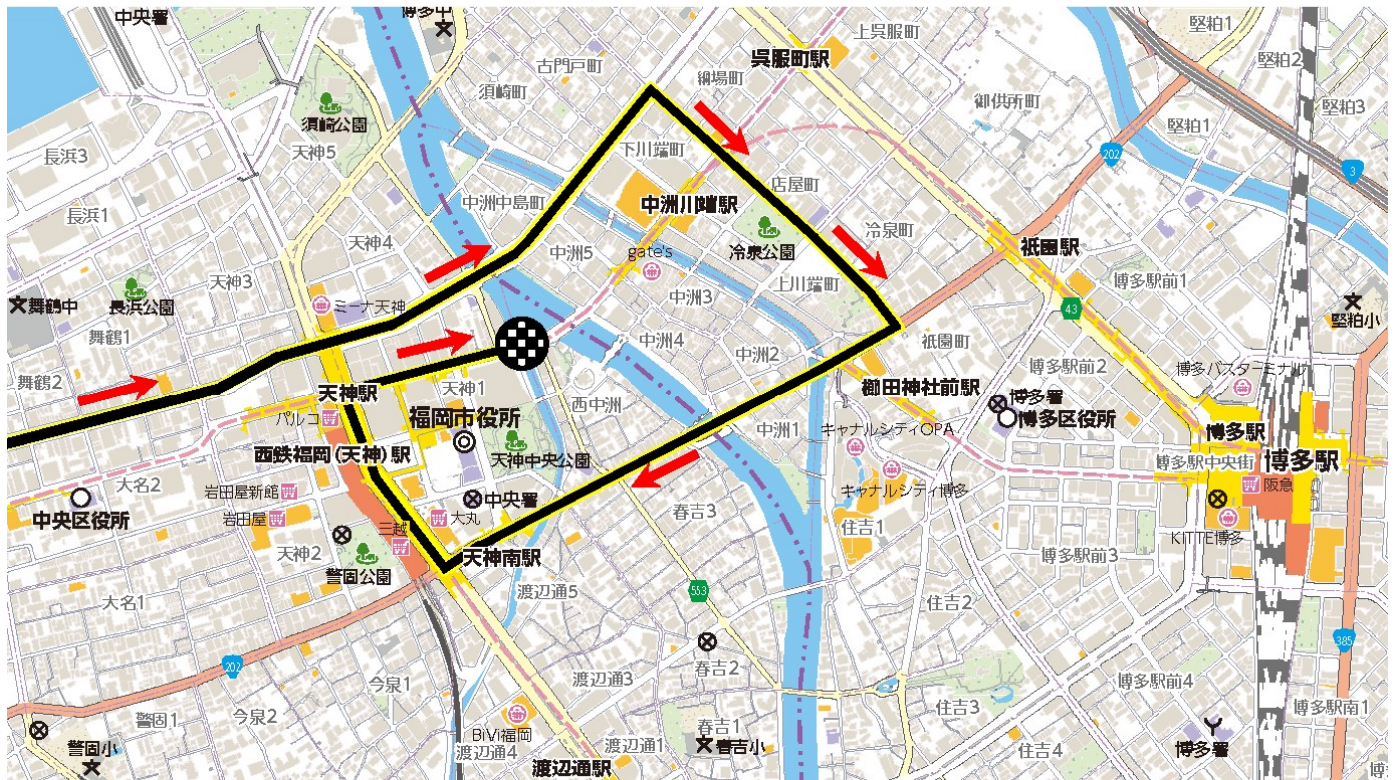
**堀切峠**

**日南海岸**

**飫肥の街並み**

**宮崎県**

天神周辺図



【マイナビ ツール・ド・九州2026の盛り上げ】

マイナビ ツール・ド・九州2026では、観客と一体となってレースを盛り上げ、かつ交通規制の事前周知＝安全対策の強化につなげようと、新たな取り組みを検討しています。

コース内でのラッピングを施した車両の走行や、フィニッシュ地点を中心にツール・ド・九州ならではのグッズの配布を予定しています。



マイナビ ツール・ド・九州 2025 の沿線の様子

## 2. リーダージャージと大会トロフィー

各ステージにわたり総合成績を争うステージレースにおいて、各賞のリーダージャージに誰が袖を通すかは大きな見どころの一つ。マイナビ ツール・ド・九州2026でも、スポンサーにご協力いただき、4種類のリーダージャージを着用します。「九州は一つ」を象徴したマークを取り入れ、色鮮やかなジャージがレースを彩ります。

また、トロフィーは、めっき企業の株式会社九州電化がプロデュースし、THE鉄人こと井上雅晴氏(福岡県久留米市)が彫金、株式会社九鏡が鏡部分を加工するなど、3社共同で製造され、寄贈いただきました。トロフィーには歴代大会の受賞者名が刻まれています。

### 【総合時間賞】 株式会社マイナビ

「マイナビ ツール・ド・九州2026」で最も称賛される賞。各ステージの個人タイムの合計が最も早い選手に与えられる。最終日の宮崎日南ステージ表彰台でこのジャージを着用した選手が総合優勝者となります。



### 【ポイント賞】 株式会社ブリヂストン

各ステージのゴール順とスプリント地点の通過順位に応じて加算されるポイントが1位の選手に与えられます。



【山岳賞】 サントリーフーズ株式会社  
各ステージのKOM(山岳ポイント)の通過順位に応じて加算されるポイントが1位の選手に与えられます。「山の恵みの水」をイメージした特徴的なデザイン。



【新人賞】 株式会社NIPPO  
開催年(2026年)に23歳未満の選手の中で、各ステージの個人タイムの合計が最も早い選手に与えられます。



### 3. 区間賞

ステージ1・2・3の各優勝者、日本人トップ選手には、大会オリジナルのメダルを贈呈。トロフィー同様にTHE 鉄人こと井上雅晴氏(福岡県久留米市)の製造です。



【ステージ優勝】  
鹿島建設株式会社



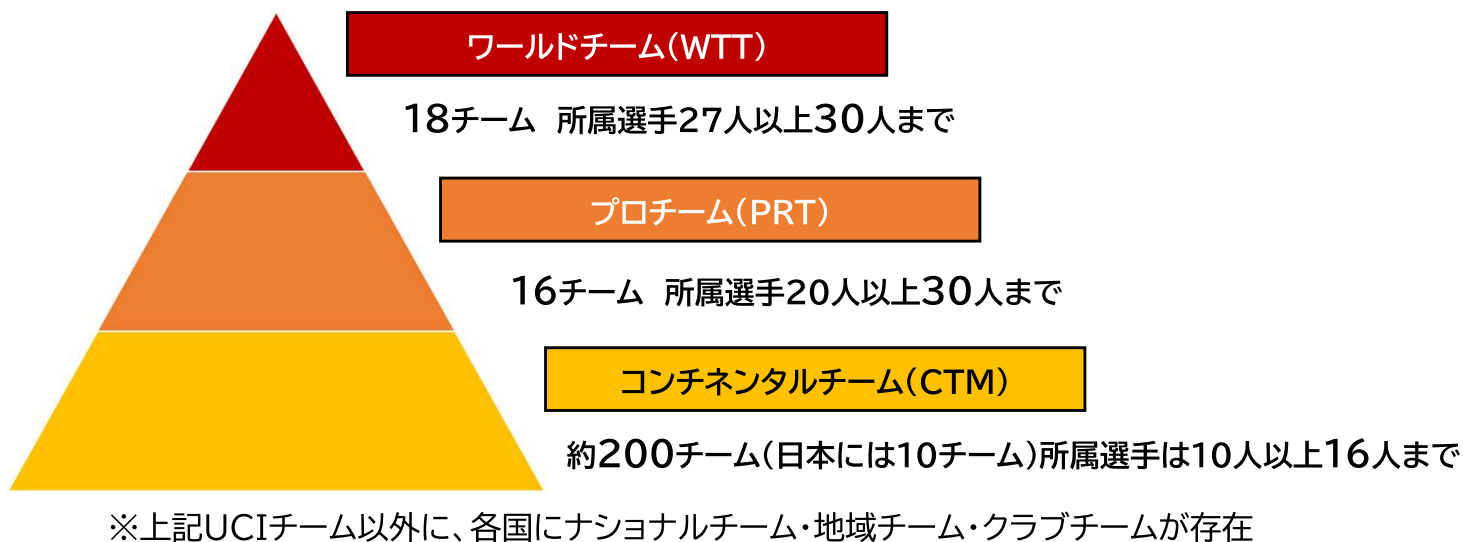
【ベストジャパニーズ賞】  
福岡トランス株式会社



## 4. 出場チーム第1弾

本日まで、マイナビ ツール・ド・九州2026に出場が決定したチームを発表します。  
 なお、大会には、18チームのエントリーを予定しています。  
 ※今後は決定次第、順次発表します

### 【参考】 UCI公認チームについて



## UCIワールドチーム

### ■XDS ASTANA TEAM/XDS・アスタナ チーム (XAT - KAZ)

戦略変更で一気に世界のトップチームに返り咲いたアジアの雄

カザフスタン籍のUCIワールドチーム。過去にディビジョン降格の危機にあり、選手補強とレース戦略の方針を転換。チームぐるみでより多くのポイントを獲得する路線に転じたところ、勝利数も増加した。2026年5月12日現在の世界ランキングは5位と、かつて降格線上にいたチームとは思えない強豪へと様変わり。チームのエースは今季ツアー・オブ・オマーンで総合優勝したクリスチャン・スカローニ。ジロ・デ・イタリアでは第2ステージを制したギリェルモ・シルバがウルグアイ人として初のマリアローザを獲得し、大きな話題をさらった。ツール・ド・九州では2023年の第一回大会においてアンドレイ・ツァイツが総合優勝を遂げている。他にも現アジアチャンピオンのエフゲニー・フェドロフや、マイナビツール・ド・九州2025の最終日を制したヘノック・ムルブラン、オールラウンダーのハロルド・テハダ、ジロでステージ優勝経験もあるヒルクライマーのロレンツォ・フォルトゥナートら、あらゆる地形で勝負できる布陣を敷く。



## UCIプロチーム

### ■TOTALENERGIES／トタルエナジーズ (TEN - FRA)

実力者が揃うフランスの名門プロチーム

セカンドディビジョンのUCIプロチームながら、フランスを代表する歴史あるチーム。ワールドチームだった過去には日本の新城幸也も在籍し、ツール・ド・フランスに出場した。プロチームとなった現在もツール・ド・フランスは常連で毎年出場。アグレッシブな走りですフランスを沸かせている。マイナビツール・ド・九州2024ではステージ2勝を記録したスプリンターのエミリアン・ジャンニエールが総合優勝を飾った。連覇を狙った昨年大会では序盤でチャンスを失い、出場したワールド／プロチーム中唯一勝利なしとなった。今年はそのリベンジを期して九州入りする。ここまで2年連続出場中のジョルダン・ジェガットは昨年のツール・ド・フランスで総合10位とブレイク。この間にフランス期待のクライマーとして台頭した。ツールでステージ優勝経験のあるアントニー・チュルジス、起伏あるコースを得意とするアレクサンドル・ドゥレットル、フランス屈指の逃げ屋であるマッテオ・ヴェルシェらアタック合戦が続くタフレースで真価を発揮する選手が揃う。



### ■SOLUTION TECH NIPPO RALI／ソリューションテック・NIPPO・ラーリ (TFT - ITA)

日本の第一人者を擁するディフェンディングチャンピオンチーム

マイナビツール・ド・九州2025で総合優勝を飾ったイタリア籍のUCIプロチーム。日本のNIPPOがスポンサーを務め、国内レースへの参戦機会も多い。プロ18年目、41歳（マイナビツール・ド・九州2026開催時は42歳）の大ベテランにして日本の第一人者、新城幸也が在籍し、その豊富な経験をチームに伝えている。チームのエースはスプリンターのデュシャン・ラヨビッチ。アジアツアーでは敵無しのような強さを見せており、昨季は13勝。今季は5月14日現在、すでに11勝を挙げている。また、この4月から43歳のベテランクライマー、ドメニコ・ポッツォヴィーヴォが電撃加入をして話題をさらった。丘陵系のレースでは今季新加入のカミエル・ボヌーに注目。今季ツアー・オブ・ターキーで総合3位に入っている。昨季途中からチームに加入した元ワールドチーム出身のマッテオ・ファップロも今季調子を取り戻しつつある。そして昨年のツール・ド・九州を制したキリロ・ツァレンコは個人的な理由からレースを離れているが、復帰準備中とチーム首脳陣は話している。今年の九州に間に合えば、再び総合優勝候補となる。



## UCIコンチネンタルチーム(国内地元チーム)

### ■VC FUKUOKA/VC 福岡(VCF-JPN)

九州地元密着チームの先駆け

2010年に福岡で設立されたクラブチームで2023年よりコンチネンタルチームとして活動。育成チームやユースクラブなど裾野の広がりだけでなく、障がいを持つ選手の活躍を支援するなど、九州地域の自転車シーン発展に貢献してきた。チームのエースは42歳のベテラン、ベンジャミ・プラデス(スペイン)。マイナビ ツール・ド・九州2023で総合4位に入った実力者は、本チーム加入後もコンスタントに成績を出しており、今季はトルコのワンデイレースで2位を含む上位入賞を繰り返しUCIポイントを積み重ねている。頼れるベテランの傍らで急成長中なのはジャラルド・レデスマ。マイナビ ツール・ド・九州2025でヤングライダー賞を獲得した23歳も、トルコのレースで上位に食い込んでいる。今季から加入した元全日本チャンピオンの山本大喜は攻撃的な走りがトレードマーク。チームの地元レースとなるツール・ド・九州でもその果敢な走りが期待される。他にも2019年の全日本選手権3位の実績を持つ横塚浩平や、レース経験豊富なベテラン向川尚樹がチームを支える。本多晴飛、阿部源、住田悠人、木村純気ら才能ある若手選手たちの走りにも注目。



### ■SPARKLE OITA RACING TEAM/スパークルおおいたレーシングチーム(SPA-JPN)

スプリントに自信を見せる九州チーム

2021年に大分で発足した地域密着型チーム。2023年からUCIコンチネンタルチームとして、九州から世界への挑戦を開始。トラックレースでも活躍するスプリンタータイプが中心のチーム構成だったが、近年はオールラウンダーを登用し幅広いレースに対応できるようチーム力を拡充している。総合エースを担うのはレース運びの巧みさが際立つ阿曾圭佑。絞り込まれた少人数でのスプリントが勝ちパターンだ。ベテランの住吉宏太や竹村拓のサポートがその鍵を握る。スピードマン揃いのチームにとって、クリテリウムやスプリントステージは活躍の舞台。マイナビ ツール・ド・九州ではまず佐世保クリテリウムが大きな目標になるだろう。チームの発起人でもある黒枝士揮と咲哉のスプリンター兄弟が地元九州のレースで世界の強豪に挑むシーンを目に焼き付けたい。士揮は今季国内クリテリウムで上位多数、ツール・ド・台湾ではステージTOP10に入る活躍を見せている。例年九州のレースではスペシャルジャージで登場し、会場を沸かせており、今年も要注目だ。



## 5. マイナビ ツール・ド・九州2026大会アンバサダー

### 中野浩一（アンバサダー）



福岡県久留米市出身。  
1977年世界自転車選手権スプリント種目で日本人初優勝。1986年まで10連覇達成。  
「世界の中野」「ミスター競輪」と呼ばれ、海外で活躍する日本人スポーツ選手の先駆けとなった。  
2006年紫綬褒章を受章。

### 川崎宗則（大会キャプテン）



鹿児島県始良市出身。  
鹿児島県立鹿児島工業高等学校から福岡ダイエーホークスへ入団（2000年）。  
遊撃手として活躍し、最多安打・盗塁王(2004年)やベストナイン・ゴールデングラブ賞などを獲得。  
2006年に開催されたワールド・ベースボール・クラシックでは日本代表に選出され、優勝に大きく貢献。  
2012年、活躍の舞台をメジャーに移し、シアトル・マリナーズ、トロント・ブルージェイズ、シカゴ・カブスでプレー。  
その後、再び福岡ソフトバンクホークス、味全ドラゴンズ、栃木ゴールデンブレーブスなどでプレーするいっぽう、野球教室やYouTubeを通じて野球の楽しさを発信し続けている。

## くまモン（応援隊長） ©2010熊本県くまモン



[生まれたところ] 熊本県  
 [誕生日] 3月12日  
 [性別] オスじゃなくて男の子!  
 [とくいわざ] 「ダンス」と「サプライズとハッピーを見つけること」  
 [仕事] いちおう公務員。熊本県の営業部長兼しあわせ部長。くまもとサプライズを広めることで熊本の魅力をみんなに伝えている。  
 2026年3月27日にマイナビ ツール・ド・九州 2026 応援隊長に就任。  
 マイナビ ツール・ド・九州 2026 応援隊長になったモン!

な、なんと!今年も10月、ボクたちの九州に世界中からすごい自転車選手が集まるモン!  
 みんなボクと一緒に応援するモン☆